

共生力

HP: <http://www3.ocn.ne.jp/~koryu/>

Tel : 03-3222-4190 Fax: 03-3222-4199

〒102-0073 東京都千代田区九段北 1-3-9 第2太陽ビル 301

発行人：黒田文男

8月15日～17日 河北省易県

第3回易県音楽教師養成研修開催

3年目を迎えた、中国宋慶齡基金会との共同プロジェクト、第3回易県音楽教師養成研修（音楽教師培訓）が、河北省易県で、8月15日から3日間行われました。当協会からは、黒田文男代表理事、吉田一徳業務執行理事が1日目の研修に参加し、参加教職員と意見交流を行いました。

開会式では、主催者を代表し、郝順清副県長から、「優れた県になるには、まず優れた教育がなければなりません。優れた教育には優れた先生が必要です。中国宋慶齡基金会、日本中国国際教育交流協会による第3回音楽教師養成研修を開催します。これは、教師の専門的素質を引き上げるとも良い機会です。研修会に参加された先生方が、この貴重な機会をしっかりととらえ、明確な目的を持ち、真摯に受講し、努力し、交流をさらに深め、学習されることを願っています。」と挨拶がありました。

宋慶齡基金会プロジェクト史金竜副処長からは、共同プロジェクトにより、設備だけでなく教師の指導力も高められていると、易県のとりくみに感謝が述べられました。



黒田代表理事からは、東日本大震災へのお見舞いや支援に対するお礼に続けて、「音楽を含め、芸術には国境はありません。言葉を越えた心の交流ができるのではないのでしょうか。私たちの協会は、末永く音楽を通して皆様と交流ができることを望んでおります。」と述べるとともに、10月に易県の教職員による教育代表団を迎えた教育交流を行い、お互いの資質の向上の役に立つよう準備をしていることにもふれて、「本日からの研修がみなさまにとって実りあるものになることを願っております。」と挨拶しました。

続けて、受講者代表から、この大切な機会にしっかりと学習したいとの表明があり、今回使われるテキストの贈呈が行われました。

研修には、易県の小中学校教師120名が参加しました。講師は、昨年に続けて北京から白潔先生を招聘し、易県実験中学校などの音楽専門教師が授業を補佐する形で行われました。基本的な音楽知識、キーボード使用とメンテナンス、合唱、演奏などへの展開方法など、研修内容も豊富で、たいへん充実した研修が行われました。

研修を準備された宋慶齡基金会と易県教育局のみなさまの尽力に感謝いたします。（吉田記）

=== 参加者代表との懇談会 ===

15日の午後、研修参加者の代表10名と教育局の方を交えて意見交換を行いました。研修に臨む姿勢や要望など多くの発言がありました。主なものを紹介します。



*音楽は得意でないが、子どもたちにとって楽しいもの、多くの音楽を聞かせて、美しさを感じさせたい。

*小学生を教えているが、とても活発で明るい。音楽の授業でもそれを発揮させるようにしたい。

*生徒を愛する気持ちと仕事を愛することを基本に授業をしていきたい。音楽は楽しく学習させることができる。情報化がすすんでいろいろ触れることができるのでそれを授業に活かしていきたい。

*音楽の教師でもすべてに精通しているわけではない。簡単な楽器の使い方や踊りの研修なども必要だと思う。

*音楽は情操の教育なので、CDやDVDなどの環境を整えることも必要なのではないか。

10月に訪日予定の先生方も出席され、研修の方法を学んだり、日本の教師の授業をぜひ見たいとの意見もありました。（吉田記）

第5期安東自由大学に参加

友情と文化理解を深める

8月29日から9月1日まで、安東市山林林養館を主



発言する坂野団長(左側)

会場に第5期安東自由大学が開催されました。参加者は50名。うち日本からは16名、当協会からは坂野団長(評議員)以下6名が参加しました。

基調報告は、日本側から「地域コミュニティから現代の社会と課題を考える」と題し、井上定彦島根県立大学教授が報告しました。井上教授は、市場の競争は社会を支える人間を育てることができない。最大の力は人間の教育の力であると述べられました。コメンテーターとして、坂野修一山梨県教組委員長が発言し、山梨では地域のコミュニティが残っている。退職した先生が子どもの面倒を見るといったような、NPO法人を介した新しい公共の社会が生まれている、との報告がありました。

韓国側の基調報告は、金暉東前安東市長(大邱大学教授)が「精神文化価値の共有方向—儒教文化を中心に」と出し講演を行いました。金教授は、東アジア3国は、歴史と文化、民俗にいたるまで類似性が多く、いくら西欧化されたといっても永年の歴史で形成された儒教文化の血脈が流れている。中国でも孔子が復活して、教育に再登場している。精神文化の地安東から、西欧的資本主義を乗り越える、「儒教資本主義」を見直そうという興味深い話がありました。

安東の景勝 芙蓉台から河回村を一望する



第3日目は、安東の民俗博物館、河回村(ハフエ)、芙蓉台を参観し、世界遺産である仮面踊りを鑑賞し、儒教文化の一端を学習しました。一行はソウルで史跡、観劇などを堪能し、台風の直前、無事帰国しました。協会からの参加者は次のとおりです。坂野修一(山梨・団長)、小山悟(静岡・事務局長) 神作正孝(千葉)、平山俊広(神奈川)、井村由紀子(静岡)、山中正和(協会業務執行理事・顧問) 参加の皆様ご苦労様でした。(山中記)

中国宋慶齡基金会

中国教育国際交流協会を表敬訪問

易県音楽研修参加にあわせ、8月16日午前、中国教育国際交流協会を、午後、中国宋慶齡基金会を表敬訪問しました。

中国教育国際交流協会では、林佐平副秘書長・常務理事に迎えていただきました。黒田代表理事からは、秋のさまざまな行事や事業がある中、当協会20周年行事に参加いただくことに感謝の意を表しました。

林副秘書長からは、これまでの国際交流の経験について貴重なお話を聞かせていただきました。

林佐平副秘書長(左から2人目)



午後は、宋慶齡故居で、中国宋慶齡基金会、喬健副秘書長はじめ、プロジェクト部、国際部の方々に迎えていただきました。宋慶齡女史像に献花をした後、喬副秘書長と黒田代表理事との会談、宋慶齡基金会のみなさんとの懇談を行いました。

喬副秘書長からは、大震災のお見舞いの言葉と、「これからも共同して事業ができることをうれしく思います。」との言葉がありました。黒田代表理事から、協会の20周年行事に教育代表団を派遣していただくことのお礼と、10月には日本の教職員も音楽の研修をとおして教育交



流ができることを楽しみにしていると述べました。(吉田記)

喬健副秘書長(中央)

表敬訪問紹介ページ(中国教育国際交流協会、中国宋慶齡基金会)

http://www.ceaie.edu.cn/html/content_2050_i_167.html

http://www.sclif.org/jggt/201108/t20110818_22978.htm

協会設立20周年記念

パネルディスカッション開催

『教育を中心にした国際協力』をテーマに

日 時 2011年10月18日(火)午後2時

会 場 ホテルメトロポリタンエドモンド

東京都千代田区飯田橋3-8-10

2時~3時

開会行事(訪日団代表挨拶など)

3時30分~5時 パネルディスカッション

パネラーの紹介などは、会報12号をご覧ください。

書籍紹介

日本僑報社 発行「中国のエリート高校生日本滞在記」

2008年に行われた慶應義塾高校と北京四中(高等学校)による日中高校生交流の記録です。中国の学生が感じた生の日本の実像が表れています。

お問い合わせ、ご注文は、日本僑報社へ(TEL03-5956-2809)